

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立清門小学校

(平成31年2月12日作成)

1 学校教育目標	
なかよく・・・笑顔であいさつのできる子・思いやりのある子 かしこく・・・進んで学習する子・確かな学力のある子 たくましく・・・やりとげる子・きたえる子 ～「児童一人ひとりが輝き 笑顔あふれる学校」～	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
・いじめはしない、させない、ゆるさない ・「笑顔であいさつ」の推進 ・道徳、人権、特別支援教育の充実 ・幼保小中を一貫した教育の推進 ・学習規律の徹底、「はっきり返事」「背すじをピン」で集中して学習に取り組む ・読書の励行、学校図書館の活用 ・家庭学習の定着 ・体育授業時の十分な準備運動の時間と運動量の確保 ・体育的行事への積極的参加 ・家庭と連携した「早寝・早起き・朝ごはん」	成果 ○「児童一人ひとりが輝き笑顔あふれる学校」の実現を目指し、教職員が一致団結し、生活指導、生徒指導に取り組んでいる。 ○学習においては算数の研究を通して、学年単位で教材の工夫や指導法の共有化が図られ、児童の考える場を増やし、わかりやすい授業の展開ができた。 課題 ●笑顔で元気のよいあいさつ ●無言清掃の徹底と継続 ●学力の向上及び体力の向上

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○校長の示す学校経営方針に基づき、全教職員が協力して取り組み、校務・会議等が機動的・効率的に進んだ。 ●会議のスリム化等をさらに進める。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○算数科の研究では、「清門小スタンダード」の確立とともに、ICTの活用等で授業の充実が図られた。 ○校内授業研究会等の充実で、若手教員の授業力が向上した。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○保健・安全に係る指導や取組が計画的・協力的に実施できた。不審者等緊急時の情報を家庭連絡メール等で配信し、情報の共有と啓発ができた。 ○児童のケガや病気等に迅速に対応し、適切な処置がなされた。 ●学校生活の中でのケガの発生件数を減少させることは引き続き課題。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○個人情報の管理、保護は徹底でき、情報漏洩等の事故はゼロである。 ○施設・設備の管理は概ね良好で、修繕も市教委等と連携し、迅速・計画的に実施できた。 ●施設・設備のさらなる管理・維持 ○学校開放団体が校庭・体育館をほぼ毎日有効に活用している。

⑤地域との連携 開かれた学校	・ 学校情報の発信 ・ 学校公開の実施 ・ 学校評議員制度の活用 ・ 地域、校種間連携 ・ PTA活動の活性化	A	○学校便りやHP、学校公開の実施等により、学校の情報発信を充実させることができた。学力向上便りも継続し、新たに特別支援教育に関わる便りを作成、配布した。 ○年間3回の学校評議員会では、学校運営に関し、貴重な意見をいただく機会となっている。 ○各町会・自治会、平成塾、学校開放団体、PTA組織との連携・協力で、清門まつりや校庭の土入れ作業、校内美化清掃等の取組が充実できた。
⑥幼保小中を一貫した教育	・ 目指す子ども像の実現に向けた取組 ・ 教育課程の編成 ・ 一貫教育推進のための組織づくり	B	○幼保小中連絡協議会や研究推進委員会、合同研修会を実施し、中学校区での情報共有等連携を強化することができた。 ○研究推進委員会を機能させることで、4部会での取組が充実してきている。 ●「一貫した教育」への教職員の意識改革をさらに図ること。

(様式1・小学校用②)

草加市立清門小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	・ 教育課程の編成、実施 ・ 教育計画の作成 ・ 教育活動の評価 ・ 目標、方針の周知 ・ 授業時数の配当、確保	B	○教育課程は適正に編成・実施された。 ○毎週発行の授業予定表や毎月の授業時数報告により、教育活動を把握し、管理することができている。 ●予備時数を考慮したゆとりのある計画作り。
	②教科指導	・ 指導計画の立案 ・ わかる授業づくり ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 評価、評定の工夫 ・ 外部人材の活用	A	○校内研修の充実により、特に算数科において、ICT等も活用した「わかりやすく・考える楽しさ」のある授業が展開できている。 ○教科・領域の単元により、外部人材を招聘した授業を仕組むことができた。
	③道徳教育	・ 全体計画の作成 ・ 各教科との関連 ・ 道徳的実践力の育成 ・ 家庭、地域社会との連携 ・ いのちの教育の推進	B	○道徳主任（道徳教育推進教諭）を中心に、「特別の教科 道徳」の指導計画作成、指導の充実を図った。 ●道徳的実践力の向上 ●「特別の教科 道徳」の適切な評価
	④外国語活動	・ 指導計画の立案 ・ 指導方法の工夫と改善 ・ 評価、評定の工夫 ・ 各教科、道徳教育との関連 ・ 中学校との連携	A	○外国語活動主任を中心に指導計画を作成、計画的に授業が進められた。 ○ALTと担任の連携により、指導が充実し、よりよい時間となっている。 ○予備時間を活用し、低学年児童とALTの交流活動が実施できた。 ●教材・教具の工夫・改善

⑤特別活動	・指導計画の立案 ・学級活動、学級経営 ・学校行事 ・児童会活動	B	○耐震に係る体育館工事により、一時期行事実施に工夫・改善も必要であったが、特活主任の尽力、他の教職員の協力により、概ねスムーズに実施できた。 ○代表委員を中心とした「朝のあいさつ運動」が充実できた。
⑥「総合的な学習の時間」の指導	・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫と改善 ・評価の工夫	B	○指導計画に沿い、実施できた。 ○活動の中での意見交換、課題解決のための調べ学習や話し合い活動が充実できた。 ●各学年の系統性等指導計画の見直し ●「ふるさと草加」をテーマにした単元、活動内容の精選と工夫・改善
⑦生徒指導	・組織的な生徒指導 ・問題行動への対処 ・教育相談、児童理解 ・いじめ防止対策 ・保護者、地域、諸機関との連携	B	○生徒指導・教育相談共に組織的な対応ができています。 ○他校や関係機関との連携・協力で、その都度問題行動等へ対処に努力している。 ●いじめや不登校対策の見直し
⑧キャリア教育	・計画の立案 ・指導内容の充実 ・中学校との連携 ・啓発的経験の充実 ・家庭、地域との連携強化	B	○各教科・領域との関連を図り、自己啓発の機会を意図的に計画し、実践することができた。 ●年間指導計画の見直し
⑨特別支援教育	・個別の指導計画、支援計画 ・指導方法の工夫と改善 ・通常学級との交流 ・諸機関との連携 ・校内支援体制の整備	A	○特別支援学級では、個別の支援計画・指導計画に基づき、個に応じたきめ細かな指導ができています。 ○校内の交流及び共同学習、他校との支援学習が計画的に実施できた。 ○特別支援教育コーディネーターを中心に、市教育支援室、県立草加かがやき特別支援学校等関係諸機関と連携・協力し、校内支援体制が充実できた。 ●特別支援学級の授業研究の実施
⑩学校図書館教育	・指導計画、支援計画の作成 ・図書館補助員の活用 ・諸機関との連携 ・図書館の整備 ・図書館利用の工夫	A	○読書の励行を重点目標とし、担任及び学校司書の創意工夫、環境整備や地域・保護者の協力により、児童の読書量も年々増加している。 ○学校公開での図書室公開、またビブリオバトルの取組を通して、家庭や地域、また児童の図書、読書への関心が高まっている。 ●読書環境のさらなる整備と充実
⑪情報教育	・教育計画の作成 ・校内研修の充実 ・ICT機器の積極的な活用 ・情報モラル教育の推進	A	○ICT機器、デジタル教科書等の導入により、PC室、ホワイトボード、電子黒板等の活用頻度が高まるとともに、児童の学習意欲も向上している。 ●校内研修や業者等による支援体制の充実

⑫人権教育	・全体計画の策定 ・各教科との関連 ・人権感覚の育成 ・校内研修の充実	B	○全体計画に基づき、各教科・領域等との関連を図り取り組むことを通じて、児童の人権感覚を育成することに努力している。 ○人権に関わる全校的な取組（研修、作文・標語の発表等）を創意工夫することで、教職員の意識が向上している。 ●人権教育の取組のさらなる充実
-------	--	---	---

(様式1・小学校用③)

草加市立清門小学校

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①学力向上	・計算タイム ・読書タイム ・読み聞かせ ・親子読書デー ・家庭・地域との連携	B	○毎週火曜日の朝を「読書タイム」、木曜日の朝を「計算タイム」とし、取組を充実させることで、児童の意欲・基礎学力が向上している。 ○児童への読み聞かせを地域の団体・保護者ボランティア、教員、中学生ボランティア（新栄中）が行った。どの読み聞かせも児童は集中して聴き、読書への興味・関心が高まっている。 ○毎月23日を「親子読書デー」に設定し、全家庭で取り組んでいる。 ○地域の方等の協力により運営している放課後算数教室、草加寺子屋に多くの児童が参加し、学力向上に向け努力している。 ○「家庭学習チャレンジ週間」（内1日を「ノーテレビ・ノーゲーム・ノースマホデー」）に中学校区3校で取り組むことで、保護者や児童の意識が向上してきている。 ●朝の時間や放課後の時間の取組をさらに充実させる。
	②体力向上	・さわやかタイム ・体力向上レベルアップカード ・なわとび教室 ・各種大会に向けた練習	B	○教室・校庭・体育館等を利用し、走力や持久力、なわとびの技術や筋力等の向上を目指した。児童は意欲的に活動し、体力向上に成果が見られているが、二極化も見られる。 ○陸上大会・相撲大会（相撲教室）・なわとび大会・サッカー大会に向けての練習に取り組み、本番でも好成績を収めることができた。 ●新体力テストに向けて取り組んだ「レベルアップカード」をさらに充実させていく。

③学校応援団	・児童の登下校時の安全・安心 ・児童への学習支援	A	○各町会・自治会、平成塾、関係団体、PTA関係者と連携・協力し、児童の登下校時の毎日の見守りを実施し、安全・安心の確保について充実できている。 ○安全・安心推進委員会を年2回実施できた。 ○お茶体験、読み聞かせボランティア、ミシンボランティア等を平成塾関係団体、地域の方々、保護者との連携・協力で実施し、成果を上げている。 ●活動内容をさらに充実していく。
---------------	-------------------------------------	----------	---

5 総合評価（学校関係者評価を含む） ・「笑顔であいさつ」について、特に校内においてはできる児童が増えている。しかし、登下校時の見守り、登校指導中の様子では、声の小さい児童がまだ多く、課題である。「無言清掃」の徹底については、以前に比べだいぶ図られてきている。日頃の清掃指導や環境整備の推進により、きれいで、安全・安心な教育環境が確保できている。 ・4年間の算数科を中心とした研究の積み重ねで、算数の授業における「清門小スタンダード」はほぼ確立できたとともに、若手教員等の授業力の向上が図られた。今後は「主体的・対話的で深い学び」のさらなる実現に向け、算数科以外の教科・領域においても研究を積み上げていくことが必要である。 ・生徒指導主任、教育相談主任、特別支援教育コーディネーターを中心に、校内のさまざまな問題、課題について定期・随時に協議し、適切な対応・解決が早期に図られた。 ・「幼保小中を一貫した教育」の取組では、夏季休業中の合同研修会をはじめ、教員の保育体験、小中連携乗り入れ授業、あいさつ運動、中学生による読み聞かせ、子どもまつり、授業見学、校内見学等、幼保小の連携、小中の連携の取組が充実していた。 ・地域や保護者との連携・協力により、学校の環境整備や教育活動への支援、安全・安心の確保等、とても充実できた。
6 次年度の改善策 ・指導の徹底教職員の「率先垂範」「凡時徹底」の意識を高め、常に共通理解、共通認識の下、共通行動・共通指導を実践していく。 ・算数科での研究を基礎に、新たな研究教科（領域）の下、児童の実態から研究テーマを設定・計画していく。 ・「いじめや不登校児童」への取組・対策をさらに充実させていく。そのために、専門の講師を招聘し、実効性のある対応・取組を実践していく。 ・特別な配慮・支援が必要な児童への対応について、これまで通り家庭とも連携を図りながら、市教育支援室や県立特別支援学校のセンター的機能等を活用し、支援体制を充実させていく。 ・「幼保小中を一貫した教育」では、4部会を中心に、取組をさらに充実させていく。特に、合同研修会、作品交流等の充実を図る。 ・全国・県・市学調や新体力テスト等の結果を踏まえた学力向上や体力向上への取組を工夫・改善し、より充実させていく。